

# 向学館通信

2006・3・27

## 春休みを有効に活用しよう

春休み中に、後れた科目、成績の良くなかった科目をやりなおすことが大切です。新学年の先取り学習もしておきたいです。

**自習に来てください。** 家で何もしない、無駄な時間をすごしている、などの生徒は、塾で自習を!

## 学校間格差がますます開く

最近、「学力向上」をめざす動きが公立中学にも出てきました。たとえば、来年度から、御所南小、高倉小が京都御池中学と組んで「5・4制」に移行するなどの新しい動きがあります。これは、「6・3制」にくらべて、より早く中学の教育レベルに到達しうる条件を整えるものです。つまり、6年生が小学校ではなく中学校に通うことで、先生も教科担任制のもとで授業を受けることにするようです。これも、他の学校との格差が広がる要因の一つです。

また、下京区内の5中学が統合してできる下京中学(2007年春に開設)では、7時間授業を行う方針を京都市教育委員会が決めたと報じられています。普通は1日6時間授業ですが、これを7時間にして、国語や数学が週3回になっているのを4回に増やすということです。さらに、土曜日の補講も検討されているようです。これらの動きは、私学と公立の授業内容の格差を縮めることを意識して進められているわけです。今後、こうした動きが、これら以外の学校にもいろんな形で波及していくことになると思われます。

厚かましいようですが、少し意見を言わせていただきます。「ゆとり教育」へ切り替えて授業時間を減らしたのは、そもそも、「つめこみ教育」批判や受験競争の過熱への反省があったからではないでしょうか。そしていま、こうした経過のうえで、教育内容そのものの深い反省無しに「授業時間を増やす」といった量的な対応だけで「学力低下」批判に対処できるとは思えないのです。

それはさておき、当塾としては、難しい問題が少ない公立中学の生徒にも、学校の水準よりハイレベルな内容を教えていくことで、こうした格差問題に対処したいと考えています。そうしないで低いレベルに甘んじさせると、高校でガクンと成績が落ちる可能性があるからです。

難しい高校の受験者の学習は、これまでどおり、志望校のレベルにあわせた学習をします。

## 主要企業の採用計画アンケート

3月20日の京都新聞に載った調査結果を紹介します。調査は、主要企業113社を対象に、共同通信社が行った来年度の新規採用計画に関するアンケートです。(以下はおもな特徴だけ)〔 〕内の数字は回答数。

「選考で重視する点は」という質問には、

- ・協調性があり、チームワークに適した人材 [56]
- ・統率、指導力があり幹部になれる人材 [39]

この二つが回答数が最も高い。これは、コツコツ勉強している子にとって身につけるのが難しい素質といえるかも。「人と上手につき合える」能力が最も求められているのです。

「より良い人材を確保するための方策は」という質問では、

- ・OB訪問やリクレーターとの接触機会増加 [36]
- ・面接回数を従来より増やす [20]
- ・グループ討論などの新しい選考方法導入 [12]

人を採用するに当たって、試験より「接触する機会を増やす」とか「面接機会を増やす」または「グループ討論する」など、コミュニケーション能力を試すことが強化されます。

「学校教育に期待することは」という質問には、

- ・人付き合いなどコミュニケーション能力の育成 [70]
- ・基礎学力向上など学習徹底 [62]

この項では、この二つの回答がダントツです。しかし、このコミュニケーション能力は、ほとんどの学校で教えられていないものではないでしょうか。以前から、私どもは、国語力とか話せる力、書く力を重視してきましたが、果して学校がこれに応えてくれるのでしょうか。